

## 編集後記

( 55巻 第10号 2009年10月 )

日本は今シルバーウィーク中であるが、ソウルで開催されている第26回日韓泌尿器科会議(Korea-Japan Urological Conference)に参加している。日本と韓国で1年毎に国と場所を変えて開催されており、私自身は10年前からコミティーメンバーとして参加している。以前は発表する若手泌尿器科医の英語力は両国とも十分とは言えず、議論のかみ合わないことがほとんどだったが、この10年間で発表者のコミュニケーション力は驚くほど改善した。発表内容も日韓両国ともレベルの高いものが多く、内視鏡手術分野にいたっては日本がやや分の悪い感さえある。来年の27回会議は京都がお世話をすることになっている。昔からの発展の経緯もあって日本中に十分な案内が行き届いているとは言い難いが、オープンなので是非参加いただきたい。

私もこの会議のおかげで多くの韓国人泌尿器科医と友達になった。どの先生も礼儀正しい親日家である。彼らの評価によると、どうも私の顔は韓国風らしい(明洞で地元テレビに街角インタビューされたこともあるので本当のようである)。韓国料理が大好きで、韓国の対岸である島根の漁師町出身であることを考えると、私のルーツは彼の国にあることは間違いないようだ。

( 小川 修 )